

令和6年度 東北地方整備局 工事事故発生状況

令和6年度 東北地方整備局 工事事故発生状況【経年比較】 別添 R7.3.31

① R6事故発生状況(R7.3.31速報値)

- ・R6年度の事故件数は121件
(前年度より28件増)
- ・労働災害は39件
(前年度より1件増で、概ね同等件数)
死傷者数は39人 うち死亡者は2人
(前年度より1人増、うち死亡者±0人)
- ・物損公衆は79件
(前年度より25件増)
- ・死傷公衆は 3件
(前年度より2件増)

② 工事事故件数推移(H27～R6)

- ・令和6年度の事故件数は過去10年間で3番目に多く、過去10ヶ年平均の112.7件を上回った。

図1-2 事故件数の推移

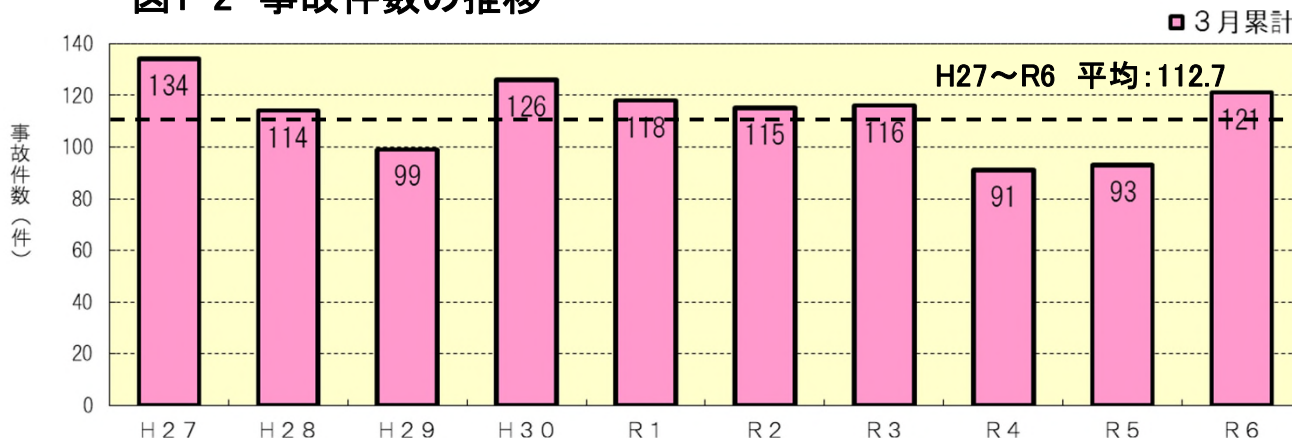
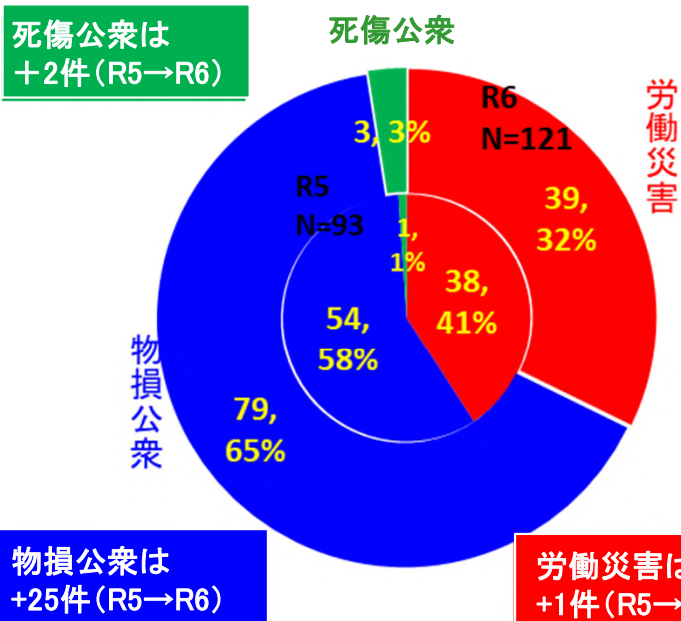


図1-1 事故件数内訳比(R5～R6)

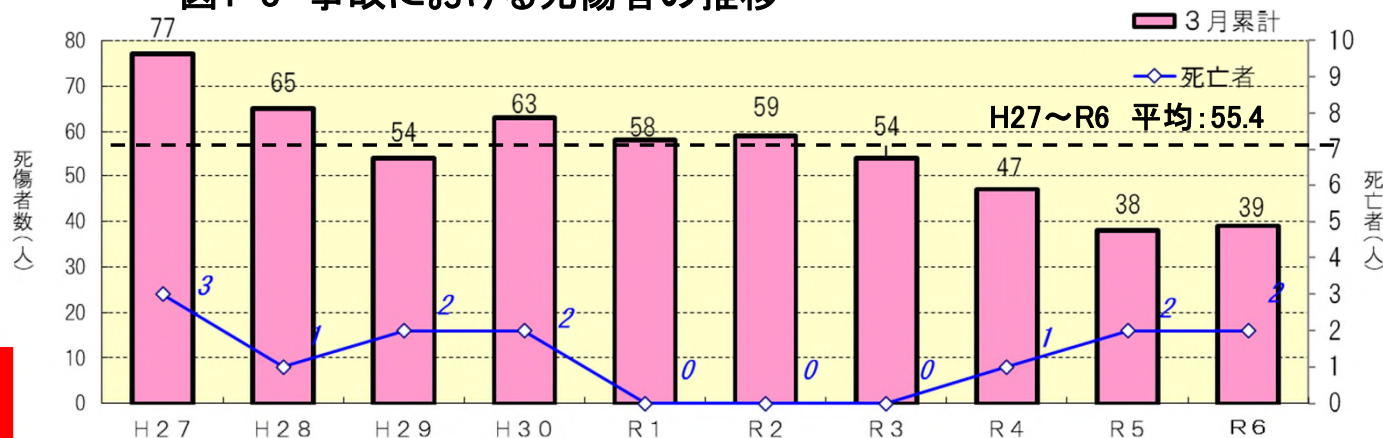


※ 港湾空港分除く

③ 死傷者数、死者数推移(H27～R6)

- ・過去10年間でみると死傷者数は減少しており、令和6年度は過去10ヶ年平均55.4人を下回った。
- ・工事事故による**死者(2名)** ※自然災害等による死亡は除く

図1-3 事故における死傷者の推移



令和6年度 東北地方整備局 工事事故発生状況【月別推移】

④ 月毎の発生状況 (R7.3.31速報値)

- ・月別で見ると、令和6年度は9月と1月の事故件数が多くなっている、
- ・9月と1月は物損公衆事故が突出している。

図2-1 月別(累計)事故件数(R1~R6)

R1~R6年度 月別(累計) 事故件数

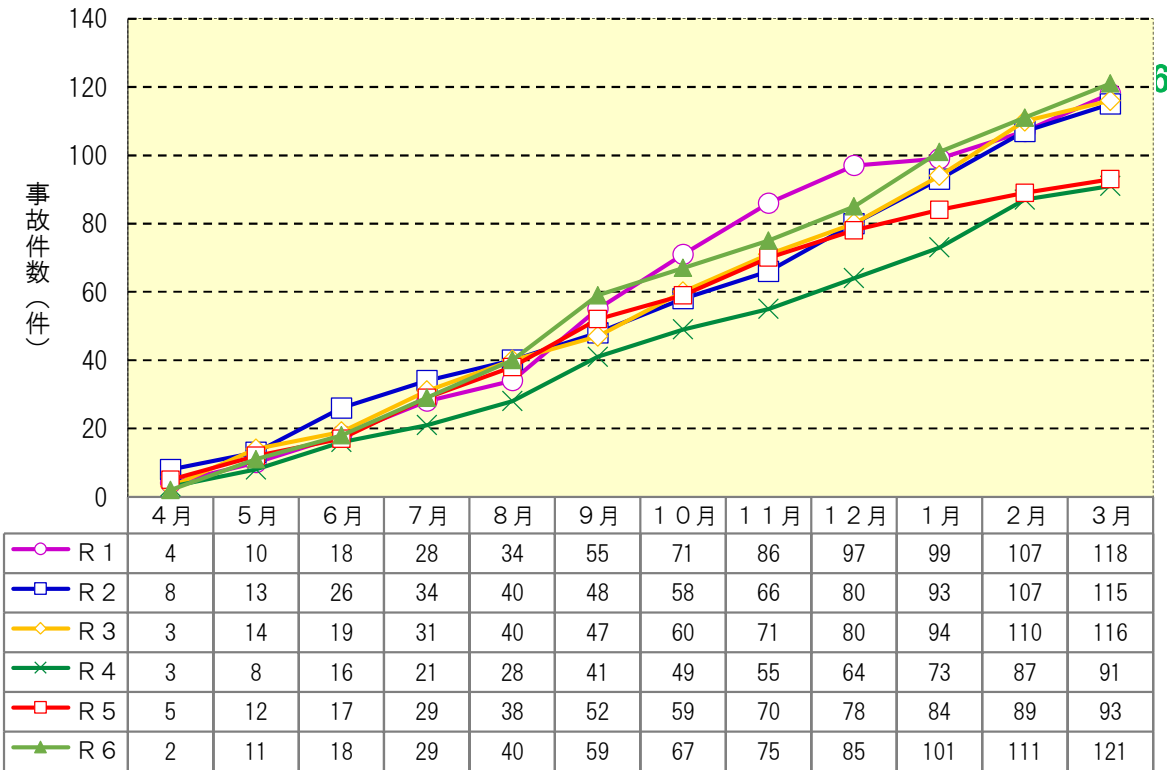
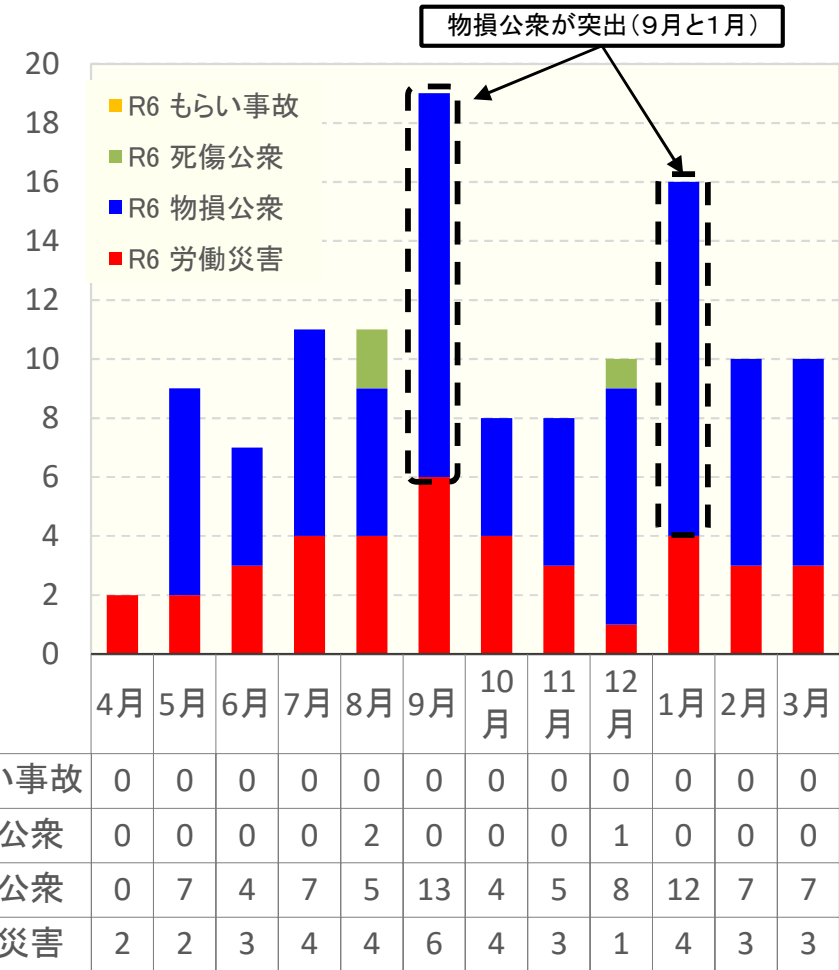


図2-2 月別種類別事故件数(R6)



【参考】

5~7月: 例年、工事が本格的に動き出す時期(本施工に入る。新規入場者多い。連休明けなど)

9月: 例年、残暑や夏季の休み明け等で疲労が残りやすい時期

1~2月: 例年、除雪作業における転倒や物損が増える時期、また工期末などの繁忙期が重なる時期。

令和6年度 東北地方整備局 工事事故発生状況【県別】

⑤ 県別の発生状況

- 被災3地域で件数を多く占めていたが、東日本大震災の復旧・復興事業完了を契機に件数が減少していた(令和4~5年度)。
- ただし、令和6年度は物損公衆事故が多く発生したため、事故件数は復旧・復興事業完了前と同水準となった。
- 令和6年度に発生した3県(秋田・山形・福島)の事故発生件数は、令和5年度より増加。
- 令和6年度に発生した3県(青森・岩手・宮城)の事故発生件数は、令和5年度と同等。

図3-1 地域別事故状況(R2~R6)

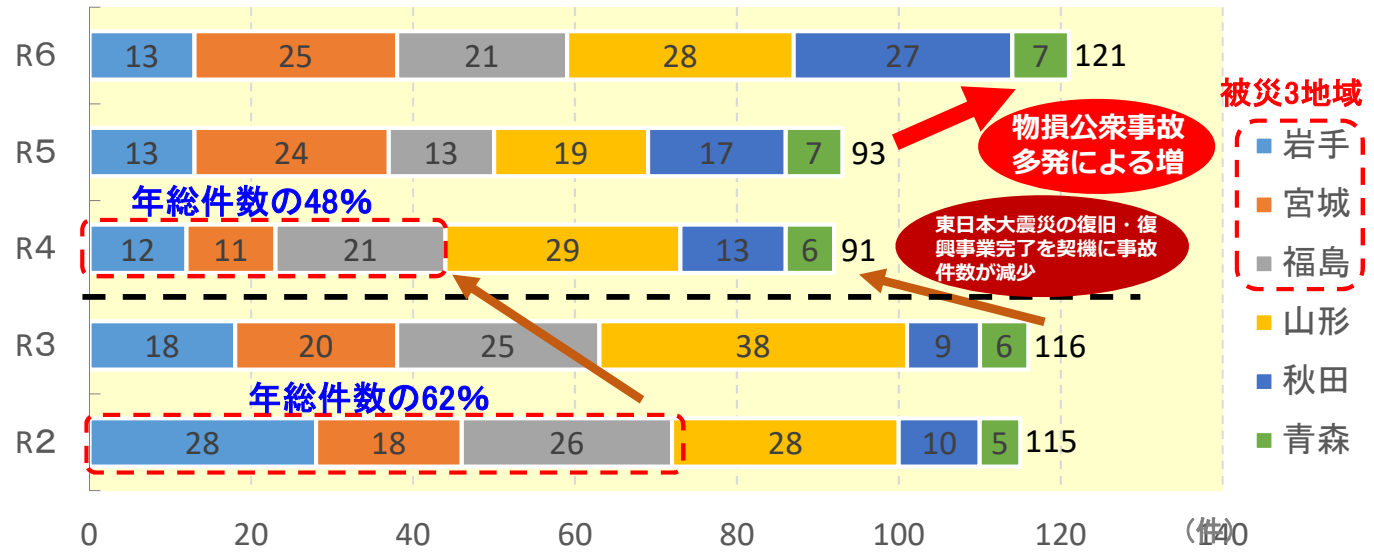


図3-2 県別事故割合(R5,R6)
R6:N=121(外円)
R5:N=93(内円)

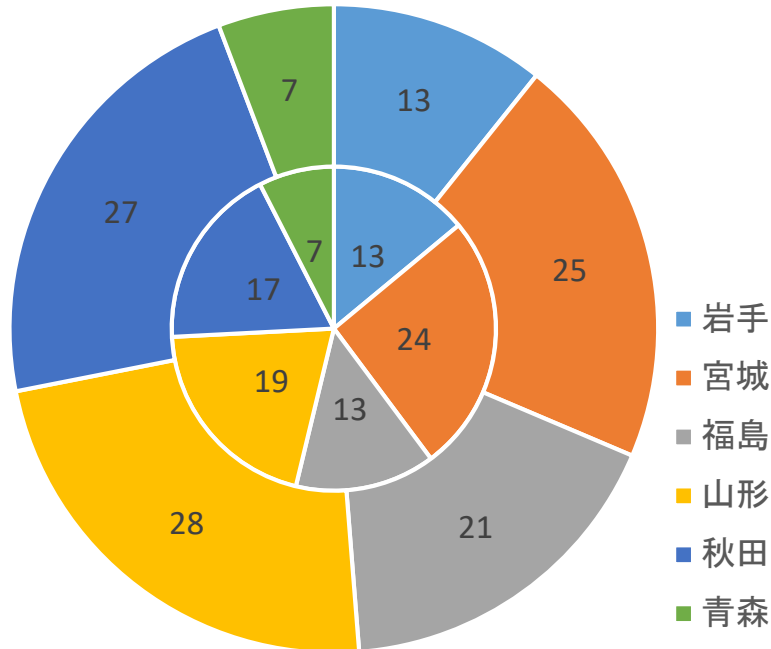
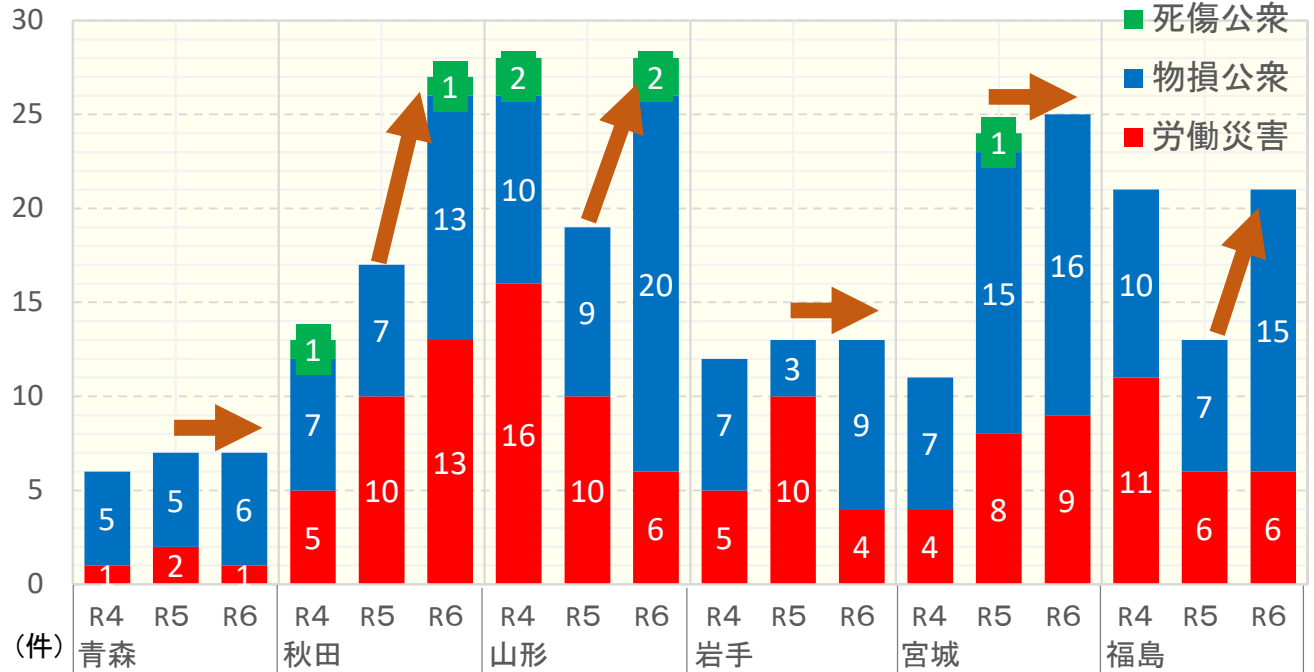


図3-3 県別種類別事故発生件数(R4~R6)



令和6年度 東北地方整備局 工事事故発生状況【災害分類別】

⑥ 労働災害、物損公衆毎の事故傾向

- ・過去10年間(H27～R6)の平均値と比べると、令和6年度の労働災害は平均値を下回っており、物損公衆は平均値を上回っていた。
- ・特に、令和6年度の物損公衆の件数は過去10年間で最多となっており、9月と1月の物損公衆の事故件数が多い。
- ・工事稼働期間の平準化等により労働災害の事故発生件数の月別の各差は小さくなっているが、毎月工事事故は発生しているので通年で注意が必要。

図4-2 労働災害の事故件数推移(H27～R6)

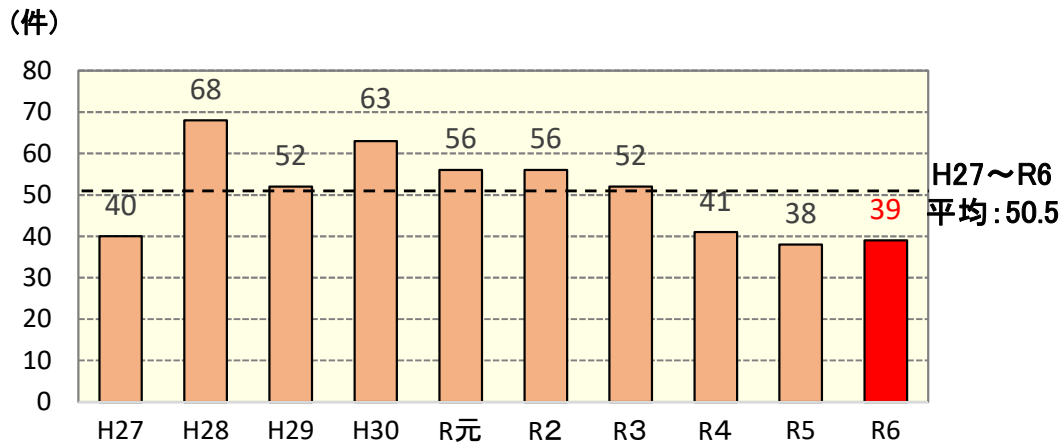


図4-3 物損公衆の事故件数推移(H27～R6)

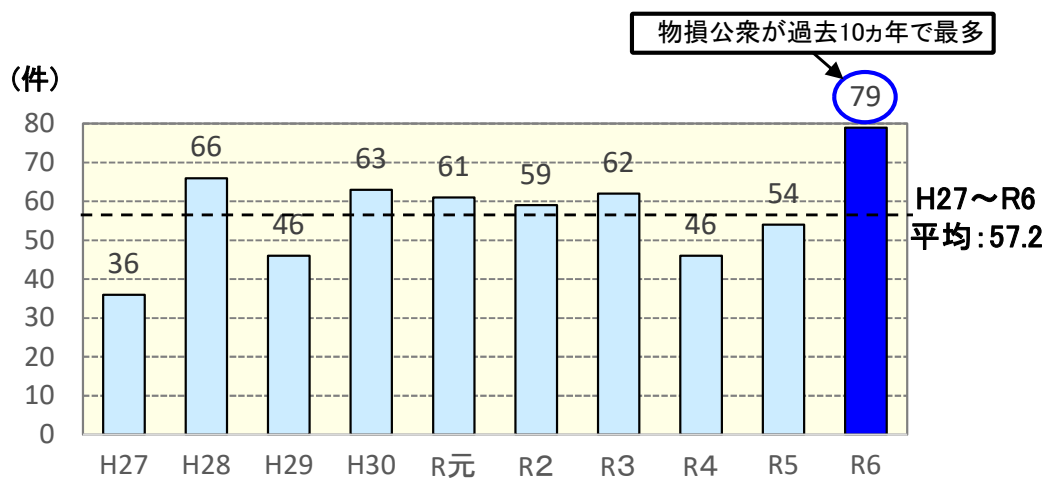
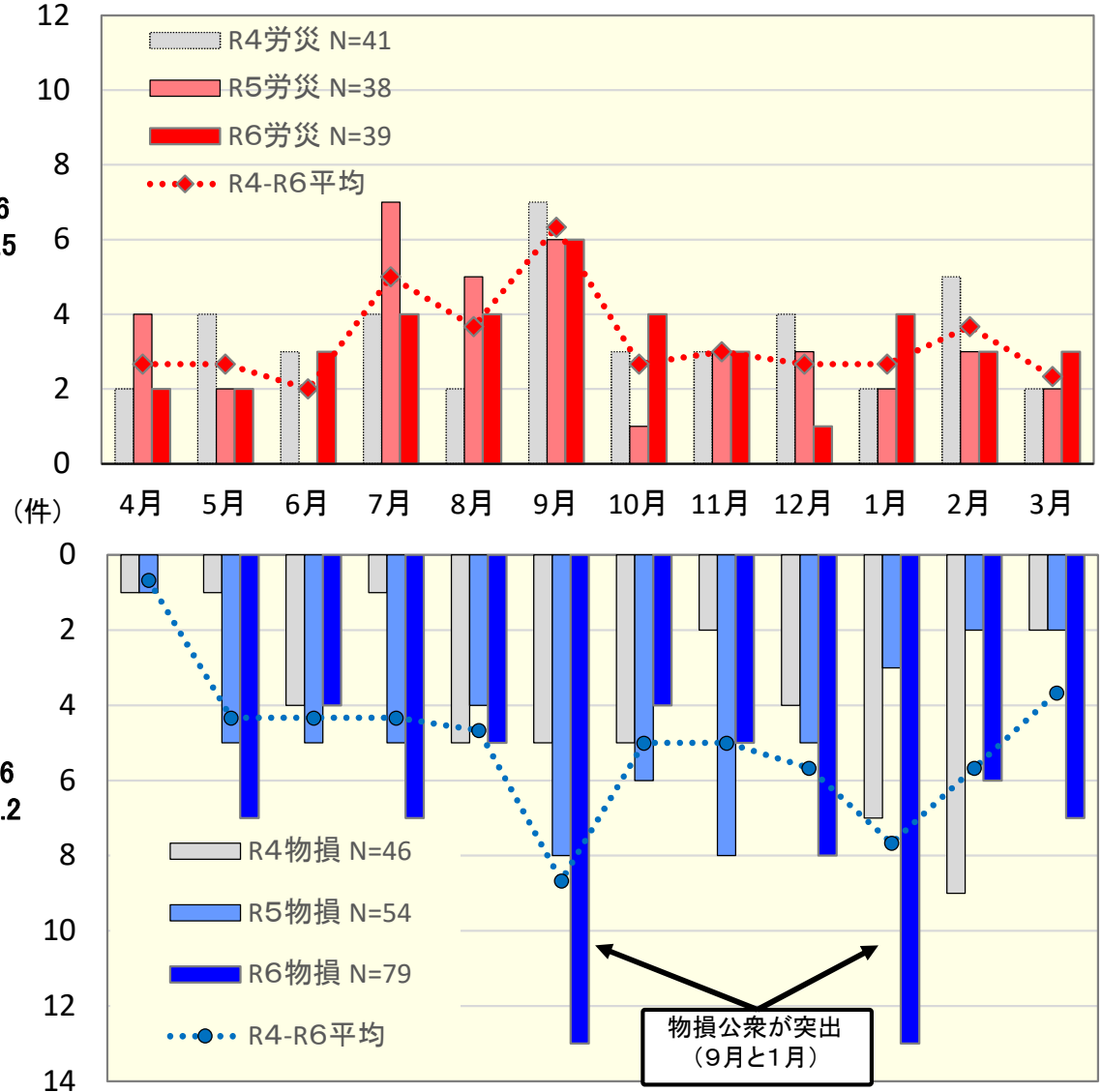


図4-4 月別労働災害・物損公衆別 発生件数(R4～R6)



令和6年度 東北地方整備局 工事事故発生状況【労災-型分類別】

⑦ R6 労働災害の型分類別件数 (死傷公衆、もらい事故を含む)

- ・令和6年度の労働災害は計39件発生。
- ・発生件数が多いのは、「機械・工具等取扱」「転倒」で全体の約5割を占めている。
- ・労働災害39件のうち、中傷以上(全治1ヶ月以上)の事故は20件発生しており、約5割占めている(前年度と同等)。
- ・死亡事故も2件発生しており、令和5年度から改善されていない。

図5-2 R6 労働災害の型分類別件数

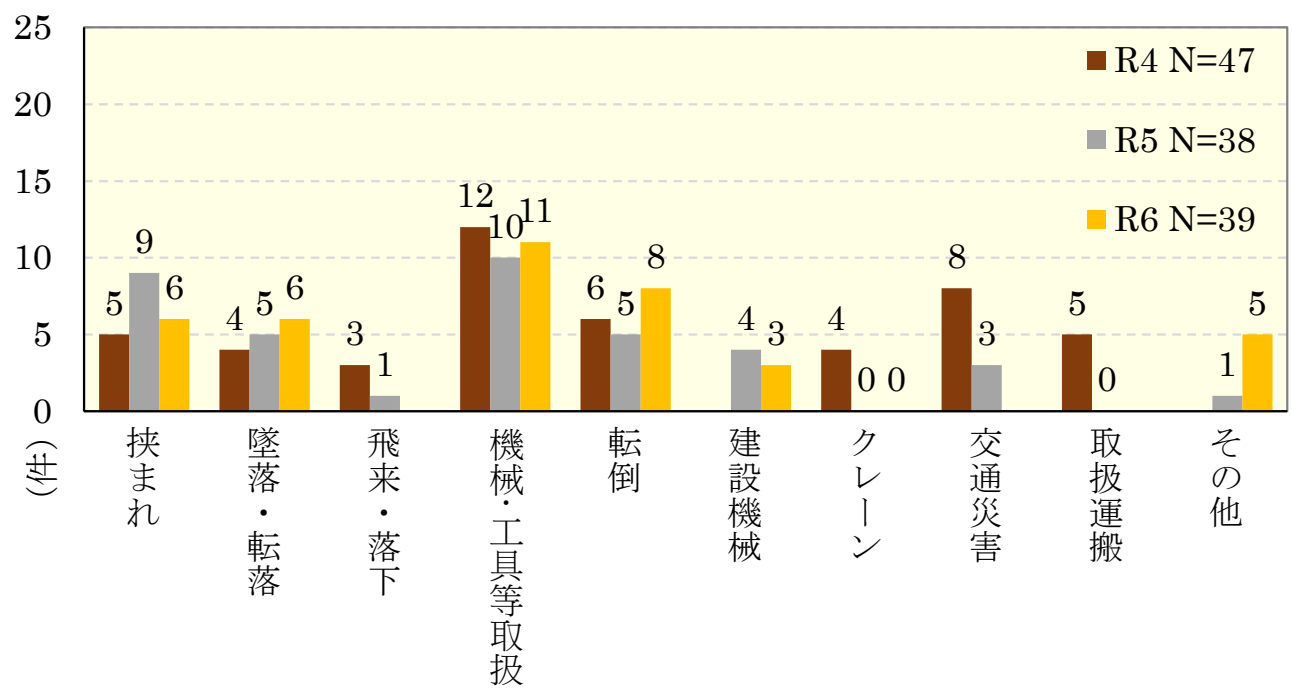


図5-1 R6 労働災害の型分類別割合 N=39件

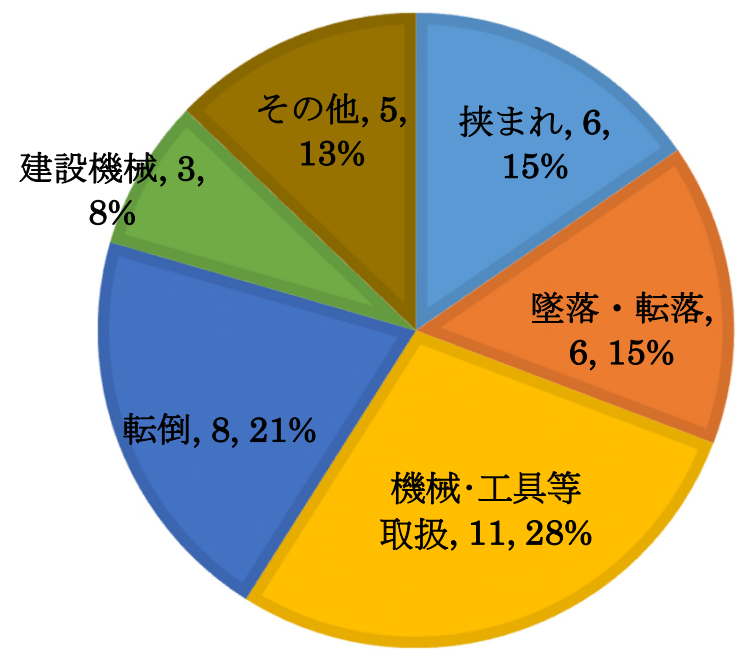
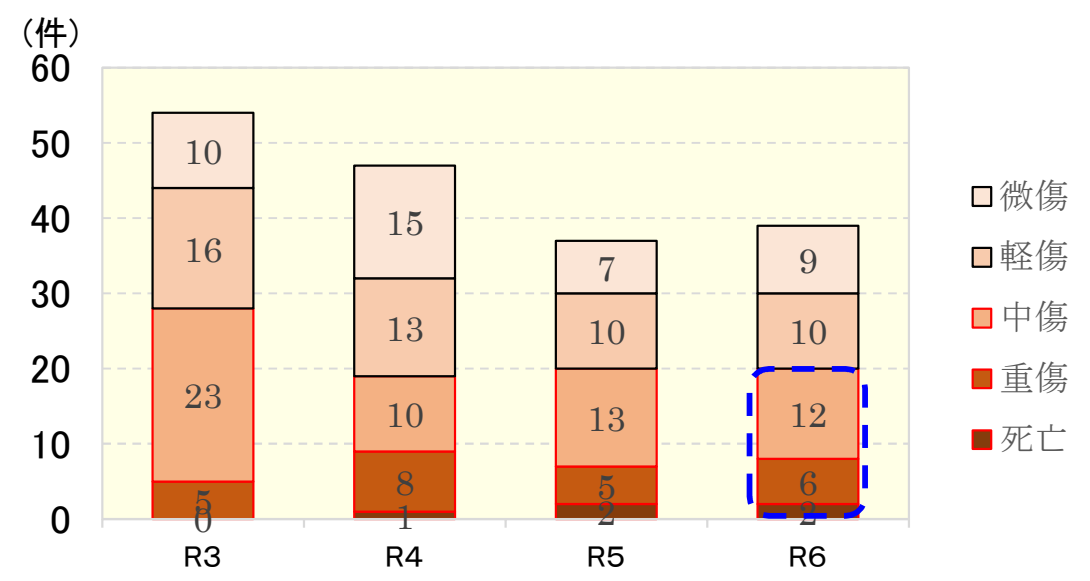


図5-3 労働災害の被災程度の推移(R3~R6)



令和6年度 東北地方整備局 工事事故発生状況【労災-型分類-発生要因別】

⑧ R6 労働災害 型分類別 被災程度別状況

- ・型分類における被災程度において墜落・転落、建設・工具等取扱は、中傷以上(全治1ヶ月以上)の件数が多い。また、建設機械の中傷以上の2件については死亡及び重傷となっている。
- ・死亡事故2件の要因は「①予定外作業(連続雨量の基準値超過に伴う休工日となっていた現場に立ち入り)」、「⑦施工上の対策不十分(玉掛けが適切でなかった)」としている。

図6-1 R6 労働災害 型分類別 被災程度別件数 N=39件

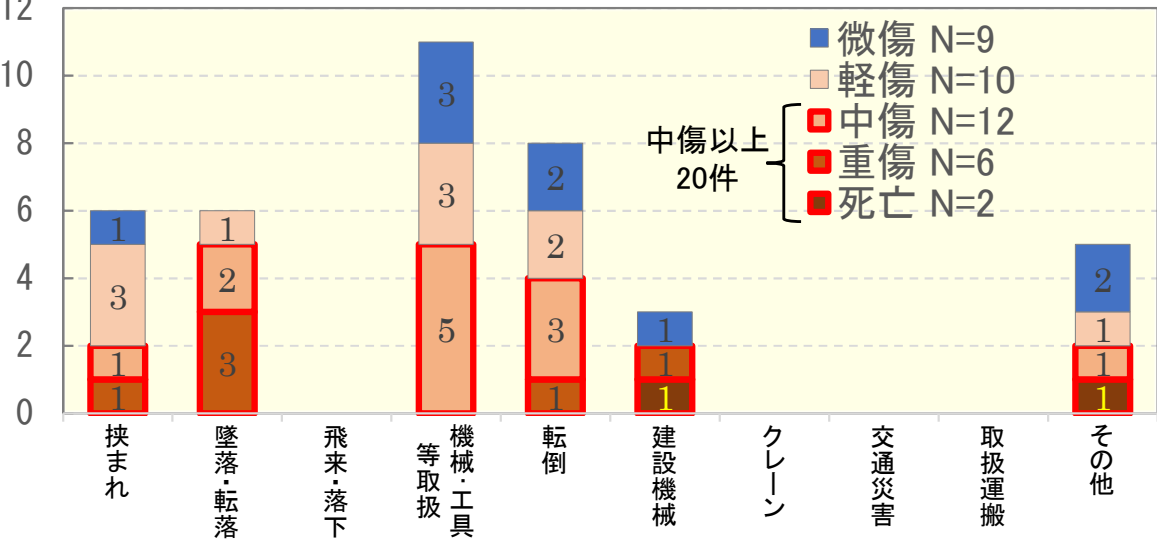


図6-3 R6 労働災害 発生要因別 被災程度別件数 N=39件

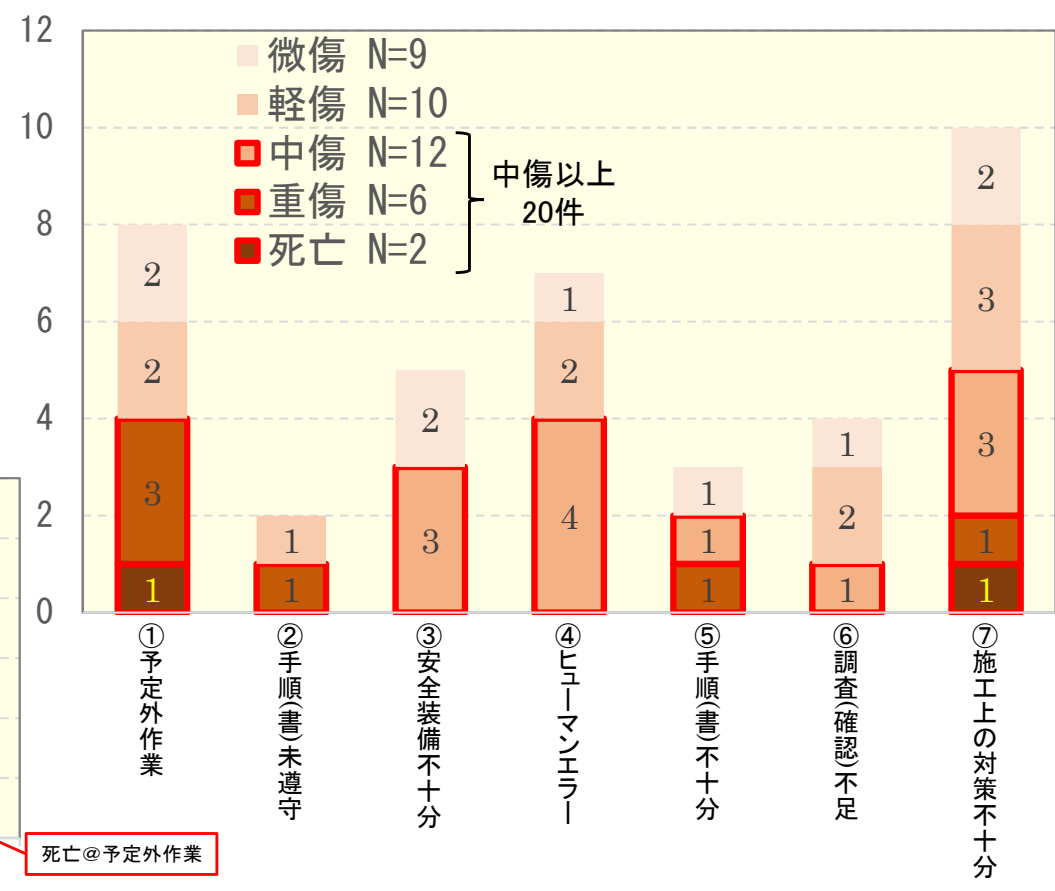
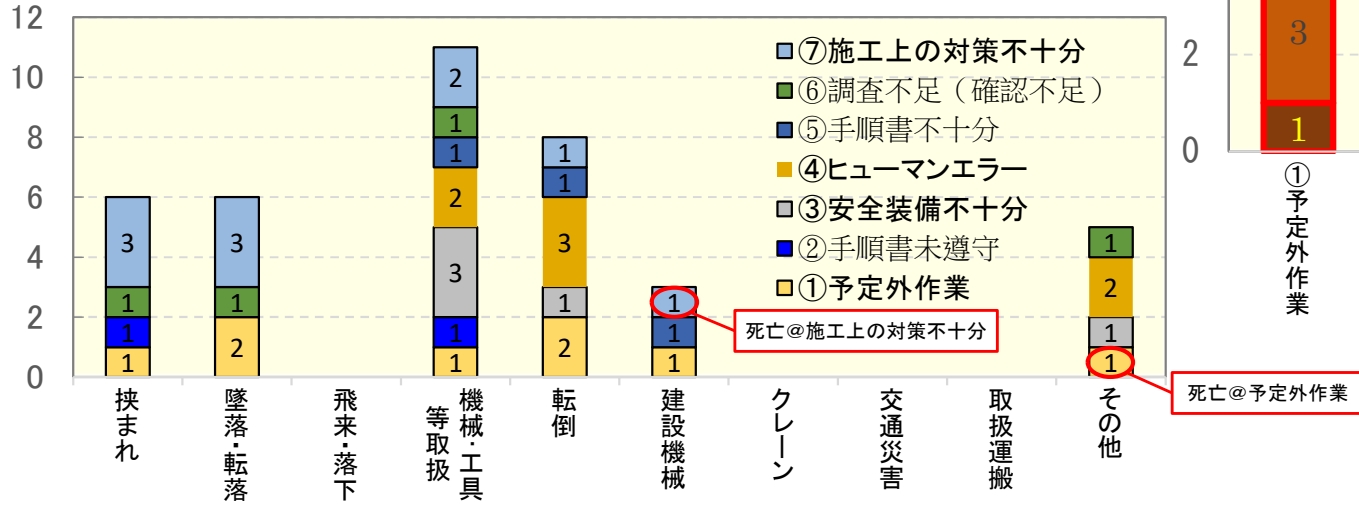


図6-2 R6 労働災害 型分類別 発生要因別件数 N=39件



令和6年度 東北地方整備局 工事事務発生状況【物損-損害物-発生要因別】

⑨ R6物損公衆 種別別件数

- ・架空線切断・埋設物等損傷の合計事故件数は昨年度と同等。
- ・一般車両損傷の事故件数は昨年度より大幅に増加。
- ・その他(公共物損傷等)等の事故件数は昨年度より増加。
- ・架空線切断・埋設物等損傷の事故要因は、調査(確認)不足によるものが多く、チェックリストでの現場確認を行わない等が散見される。
- ・一般車両損傷の事故要因は、安全運転に配慮していれば防げるヒューマンエラーや手順書記載内容の不十分が多い。

図7-2 物損公衆 損害物別事故件数(R3~R6 比較)

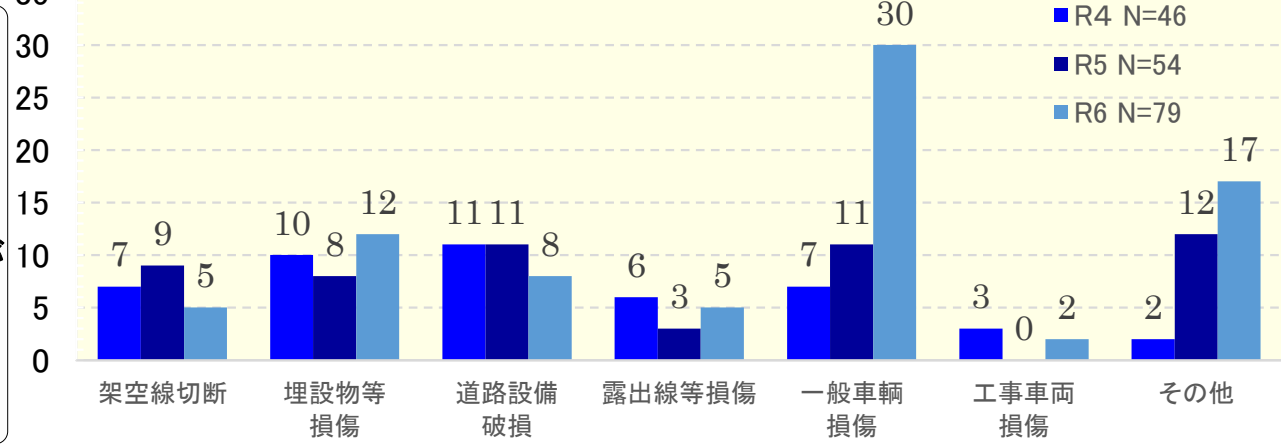


図7-1 R6事故分類別割合 N=79件

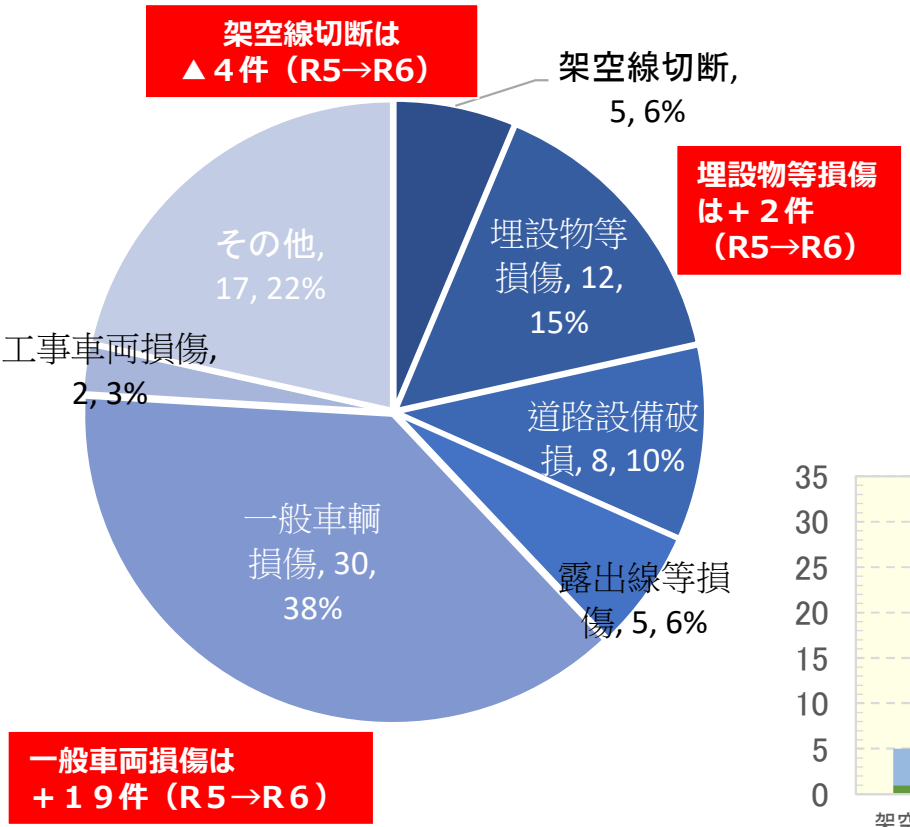


図7-3 R6 物損公衆 損害物別 原因となった機械・器具

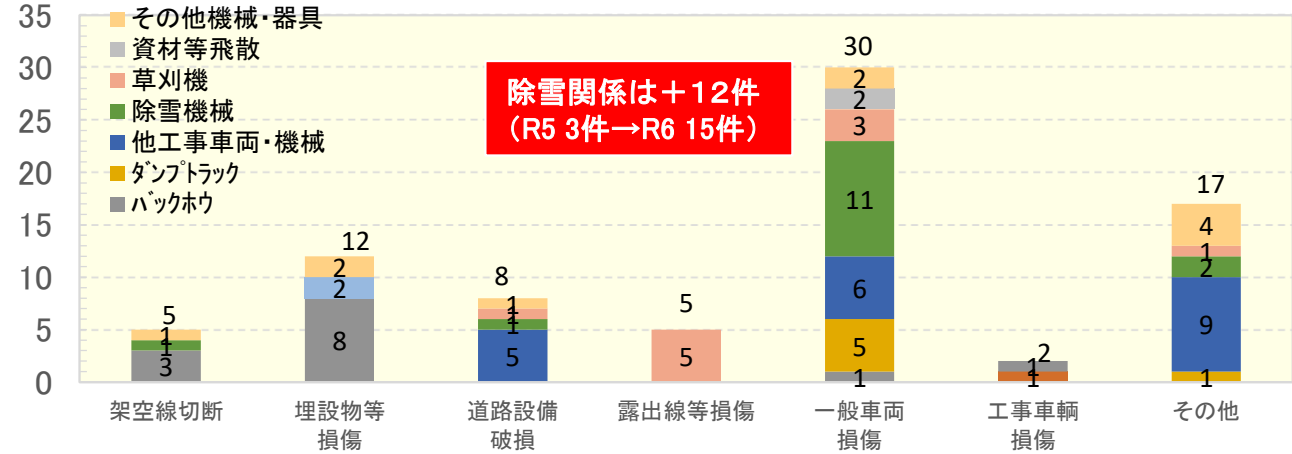
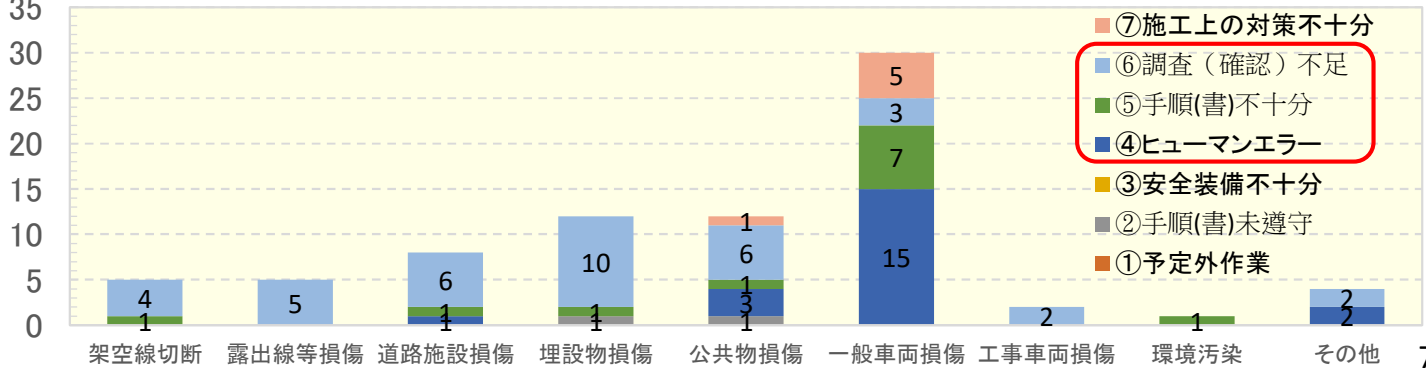


図7-4 R6 物損公衆 損害物別 発生要因別



令和6年度 東北地方整備局 工事事故発生状況【入場・年齢別】

⑩ 現場入場日別事故発生件数(労災・物損)

- ・事故関係者が現場入場してから何日目に事故が発生しているか30日毎に分けると、入場後**30日未満で約3割**、入場後60日以内で約5割発生。
- ・30日未満を細かくみると、**入場2週間以内の発生割合が約7割と高い。**

⑪ 労災被災・物損加害 年齢層別件数

- ・事故当事者の年代は多岐にわたる。
- ・経験豊富な40～60代における、労働災害被災者割合は約6割・物損公衆の加害者割合は約7割を占める。
- ・R6年度の事故当事者は20代が多くなっている。

図8-1 R6 現場入場経過日数別発生件数 図8-2 現場入場から事故発生迄の期間

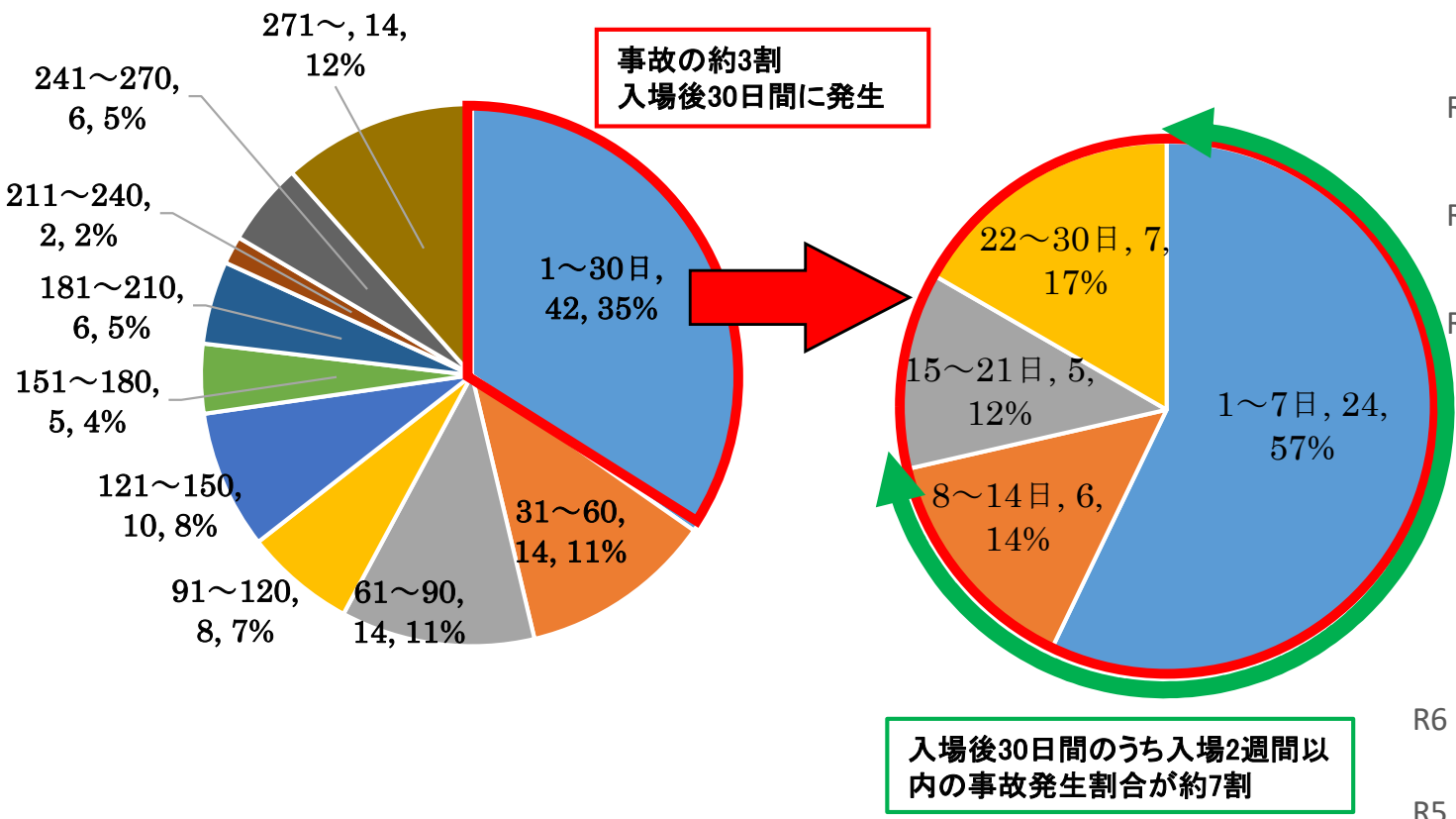


図8-3 労働災害 加害者年齢層別

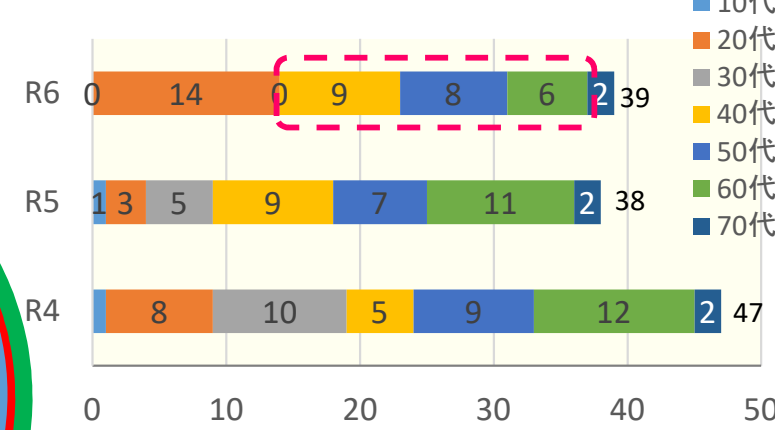
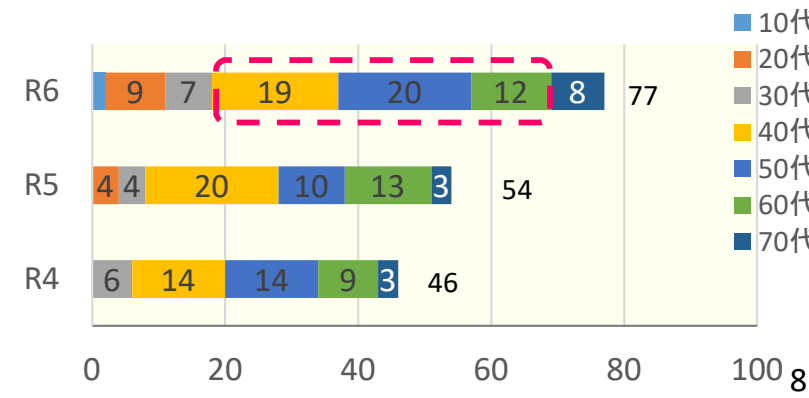


図8-4 物損公衆 加害者年齢層別



令和6年度 東北地方整備局 工事事務発生状況【交通災害別】

⑪ 交通災害 ※受注者管理責任がない交通事故を含む

・管内の工事現場付近や作業員などが関与した交通災害は129件発生
 うち、受注者の管理責任がない交通事故は95件(一般の交通事故多数)
 うち、受注者の管理責任が問われ、工事事務として扱ったのが34件(物損公衆が多い)

図11-1 R6交通事故 事故形態別件数 N=127件

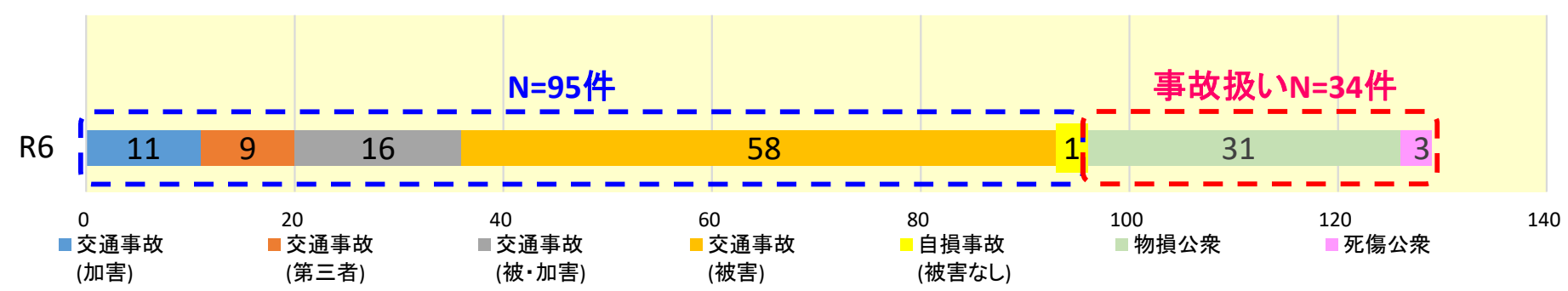
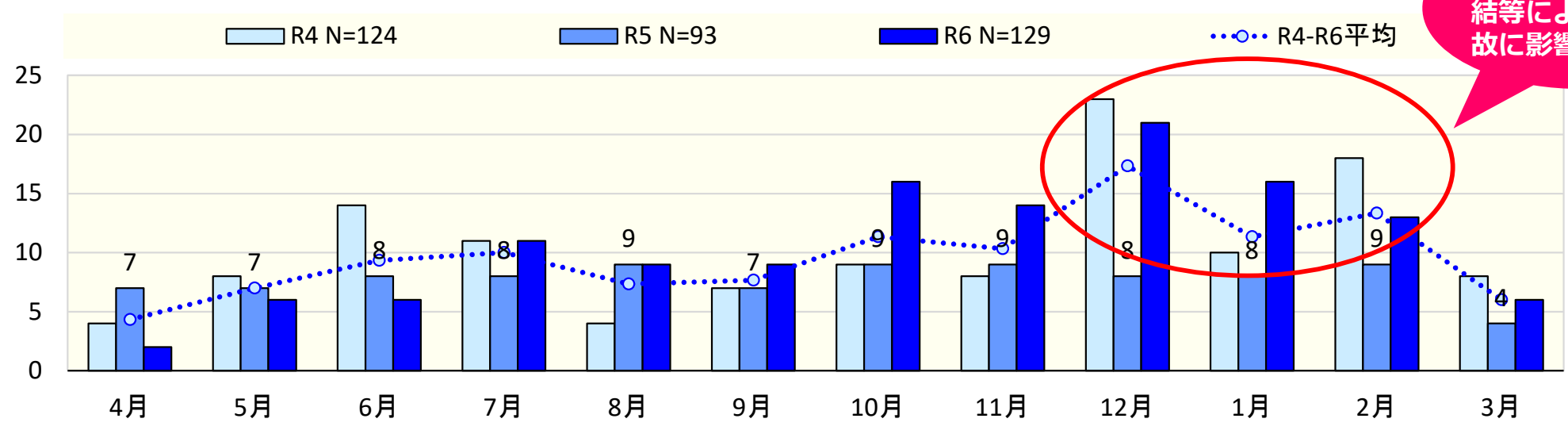


図11-2 R6 交通事故月別(R4~R6)



冬期は、積雪・凍結等により交通事故に影響しやすい。

令和6年度 東北地方整備局 工事事務発生状況【熱中症】

⑫ 熱中症(脱水症、熱中症疑い含む)

- ・令和6年度は各現場での熱中症に対する取組が進んだことにより、前年度より熱中症の発生件数が減少したと考えられる。
- ・熱中症は年代問わず発生するため注意が必要。

図12-1 R6 県別熱中症発生件数 N=8件

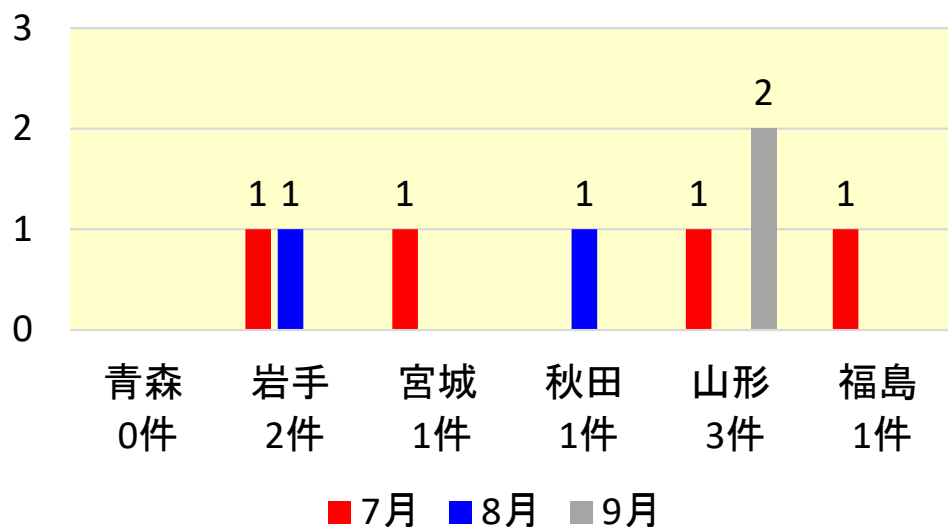


図12-2 R6 年代別熱中症休業件数 N=8件

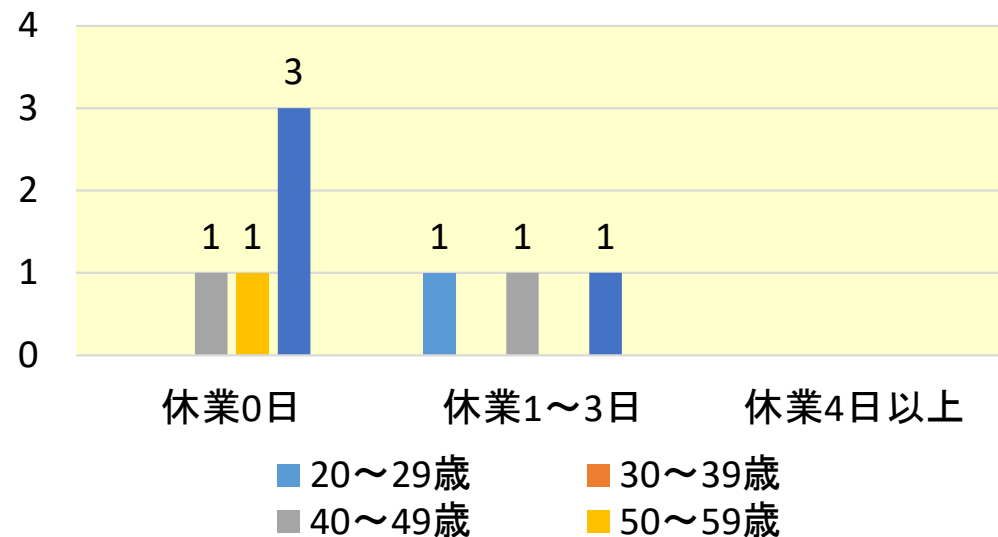


図12-3 R5 県別熱中症発生件数 N=17件

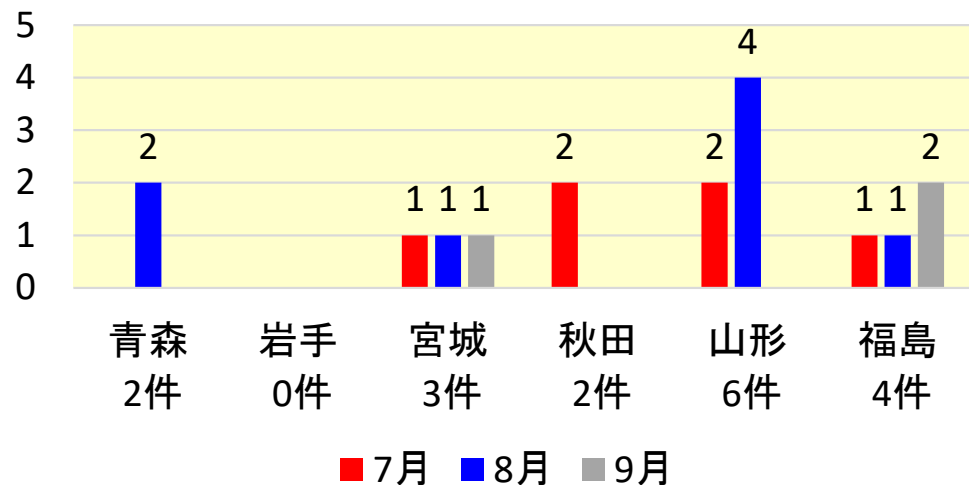


図12-4 R5 年代別熱中症休業件数 N=17件

